

# 財務省の発掘調査と人骨



2012年7月22日  
人骨発見23周年集会  
川村一之



# はじめに

- 1. 財務省調査までの経緯
- 2. 石井元看護師の証言
- 3. 財務省の調査地
- 4. 発掘調査と遺物
- 5. 人骨との関連
- 6. 手術演習と生体解剖
- 7. 義肢と切断術
- 8. まとめ

# 1. 財務省調査までの経緯

- 1989年 人骨発見
- 1992年 佐倉鑑定
- 1998年 石井元看護師の証言
- 2001年 厚生労働省の人骨報告
- 2006年 川崎厚労大臣と面会
- 2011年 厚生労働省発掘調査
- 2012年2月 1日 発掘調査開始
- 2012年3月30日 発掘調査終了



## 2. 石井元看護師の証言

(旧前)

- 人体標本が埋められたとされた3カ所
  1. 「見た」
  2. 「聞いた」
  3. 「手伝った」





### 3. 財務省の調査地(1)

- 陸軍軍医学校跡地(新宿区戸山)  
面積 約57,074m<sup>2</sup>
- 若松住宅内児童遊園  
面積 約1,200m<sup>2</sup>

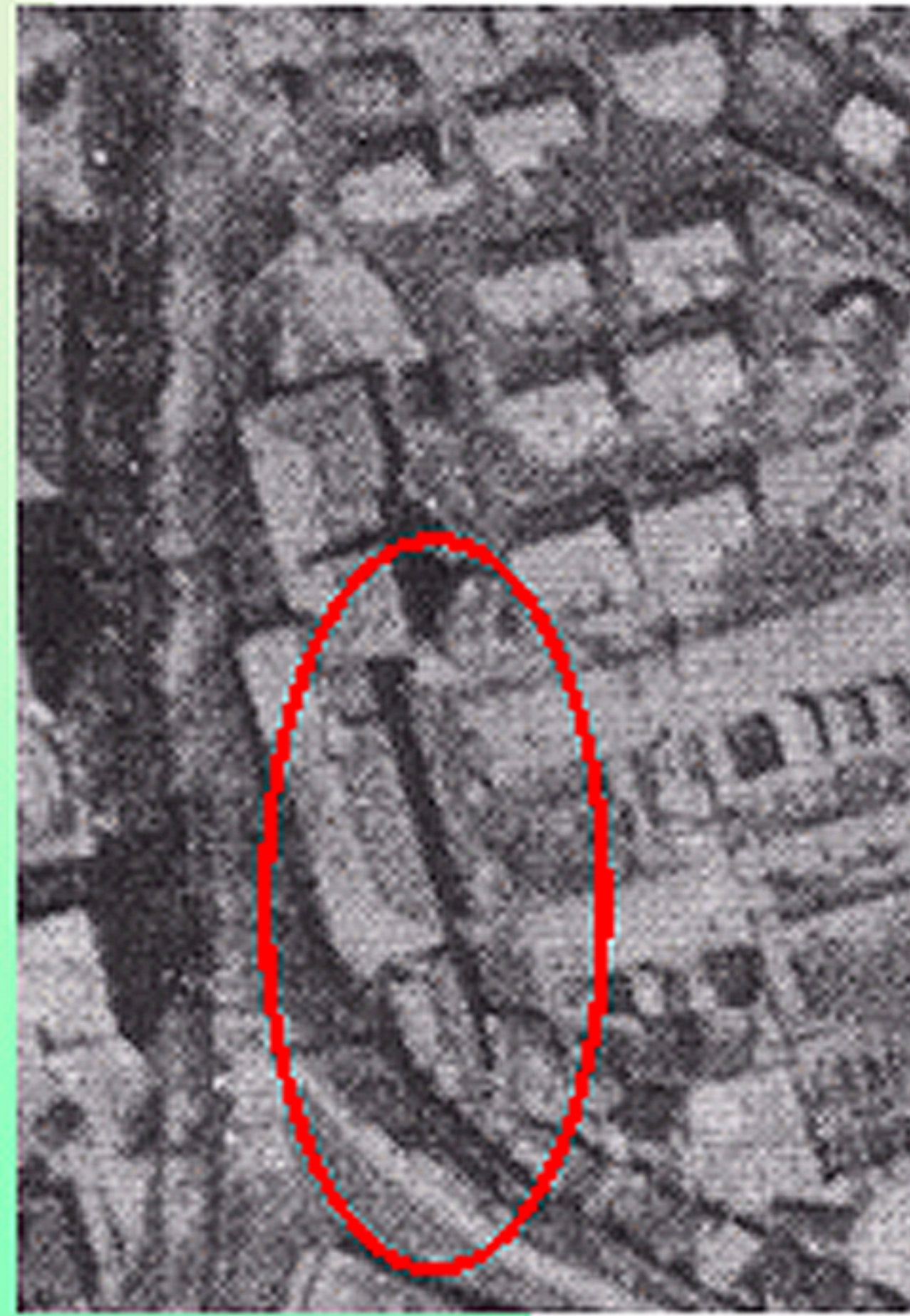


東京航空写真地図

1958年8月～4月撮影 創元社



### 3. 財務省の調査地(2)





## 4. 発掘調査(1) 1工区





## 4. 発掘調査(2) 1工区(1号土坑)





## 4. 発掘調査(3) 2工区





## 4. 発掘調査(3) 2工区(2~6号土坑)



■ 2012年8月6日 現地説明会



## 5. 人骨との関連(1) 整形外科

- 1929年4月 陸軍軍医学校、牛込に移転
- 1931年9月 「満州事変」勃発
- 1932年4月 整形外科新設・防疫研究室設立



陸軍軍医学校牛込校舎の講義室



陸軍軍医学校牛込校舎の防疫研究室

『陸軍軍医学校五十年史』より



## 5. 人骨との関連(2) 整形外科

診療数(昭和21年1月1日～昭和21年9月31日) 陸軍省立病院(陸軍省立病院) 昭和21年174号			
科	主任	期間	診療数 %
外科	三浦王/唐城剛	昭1.2 至8.13	201 239
	同 竹内劔	昭1.2	
眼科	三浦王/松田彰	昭1.2	237 329
耳鼻喉科	同 斎藤勤	昭1.2	294 348
皮膚科	同 細谷清	昭5.15	28 128
口腔科	一宮王/玉鑑台	昭4.1	532 628
小児科	三浦王/野村	昭1.2	28 138
整形外科			218 217
計			838 1008

備考 本表外 診療内科にて診察する者(83名)



# 5. 人骨との関連(3) 整形外科

応用医学学校ニ於テ研究ニ作製セシ義肢及補助器ノ種類

義肢	腕	大腕	木義足	1. 生理的腕前義足 2. 木杖式腕 生理的腕前義足
			假義足	3. 木杖式腕前義足 4. 腕前前義足
	手	下腕	木義足	1. 腕前前義足 (1名 鉄製) 2. 労働用無腕義足 (1名 木製)
			假義足	1. 生理的腕前義足 (木杖式腕) 2. 無腕義足 3. 假義足
補助器	手	木義手	4名	
		労働用	4名	
		杖形連用補助器	9名	
		矯正用二足定形補助器	10名	

「戦傷患者ノ労働時新装代用ニ就テ」軍医回覧誌 昭和17年12月

第11回日本医学学会総会 (昭和17年3月26日より5日間 東京市田代大学) 内の軍医学会総会 (3月27日) で発表



## 5. 人骨との関連(4) 佐倉鑑定



■ 写真91 大腿骨  
(鋸断 中枢側)



■ 写真92 大腿骨  
(鋸断 末梢側)



## 5. 人骨との関連(5) 佐倉鑑定



■ 写真94 脛骨  
(正常)



■ 写真95 脛骨  
(鋸断痕)



## 5. 人骨との関連(6) 佐倉鑑定



- 写真97 肋骨 足骨  
(左側の4つは足根骨、右から  
2番目は中足骨、右端は不詳-  
保坂医師)

- 写真96 前腕骨 腓骨  
(鋸断痕)



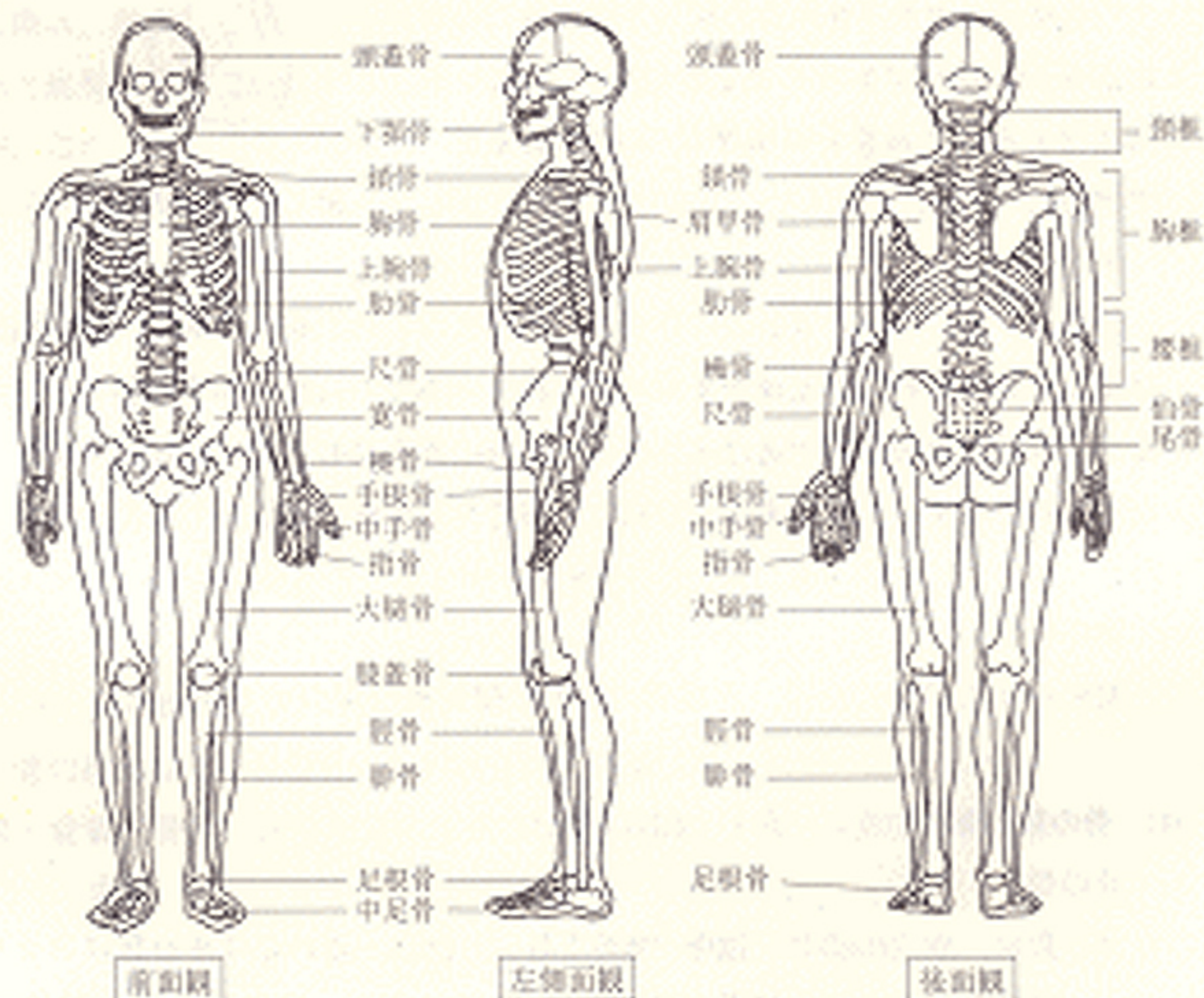


図2 全身骨格の名称



# 鋸断痕のある四肢骨 まとめ

鋸断痕のある四肢骨(82年人骨) まとめ 川村一之作 2012/7/22

※ 左の数字は右の数字と対応している数字

四肢骨	部位	骨数	骨種	観察事項	
				骨種	観察事項
四肢骨	下肢骨	大腿骨 13骨	骨種1	上肢中腕部 鋸断3骨	大腿下部切断・鏡見と染色・標本? 大腿上部切断・鏡見と染色・標本?
			骨種2	下肢末梢部 鋸断7骨	大腿上部切断・鏡見と染色・標本 大腿下部切断・鏡見と染色・標本
		下腕骨 20骨	尺骨17骨 骨種4 骨種5	上肢中腕部 7骨(正骨5骨 鋸断2骨)	大腿切断と末梢部か? 標本? 下腕下部切断か? 標本? 肩胛骨鋸断と鋸断? 標本?
				下肢末梢部 鋸断7骨	下腕上部切断・鏡見と染色・標本 下腕下部切断・鏡見と染色・標本 標本
			腕骨3骨 骨種6	上肢中腕部 2骨(正骨1骨 鋸断1骨)	下腕上部切断・鏡見と染色・標本
	足骨 8骨	骨種7	下肢末梢部 鋸断1骨	下腕下部切断・標本?	
			足指骨4骨	「尺骨と一体(左白嚢完)・大腿以下で腕切断 の末梢部・凍結の可能性 標本	
			中足骨1骨 不詳1骨		
	上肢骨	前腕骨 4骨	骨種8	4骨(正骨1骨 鋸断3骨)	標本? 上腕上部切断・鏡見と染色・標本 上腕上部切断・鏡見と染色・標本 上腕下部切断・鏡見と染色・標本



## 5. 人骨との関連(7) 佐倉鑑定

- **四肢骨の鋸断** 大部分が骨のいろいろな位置で鋸断されている。骨質の保存は不良で、褐色の着色も強いので、防腐処理がなく軟部が付着していた可能性が大きい。残存する若干の足骨もこのうちの脛骨と一体であったと考えることができる。鋸断以外の加工や明らかな病変は認められない。
- **要約** 四肢骨のうちには骨体のいろいろな位置で鋸断されたものが多い。これらの意味は明らかではないが、軟部が付着していた可能性がある。



## 5. 人骨との関連(8) 佐倉談話

- この手足の切断、例えば手術で切断する、そういうことでもありまして、**手術**で切断された骨ということも考えられます。それから何らかの**標本**をとるために死体の足を切断したと、そういうことでも考えられます。(1992年4月)
- 軟部がないから外側がどうなっているのか分からないが、想像するといろいろな可能性が考えられます。例えば寒いところで**凍傷実験**をやるとか。いろいろ想像はしております。(2002年7月)



## 6. 手術演習と生体解剖(1)

### 湯浅謙元軍医の証言(1)



- 「骨を切断する場合には、骨の切断面がなるべく奥に入るように、肉を上部へ可能な限りたくりあげておいてから切断し、**切断面をやすりで磨く**のである。」(『消せない記憶』吉岡那津子著 日中出版 1981年)



## 6. 手術演習と生体解剖(2)

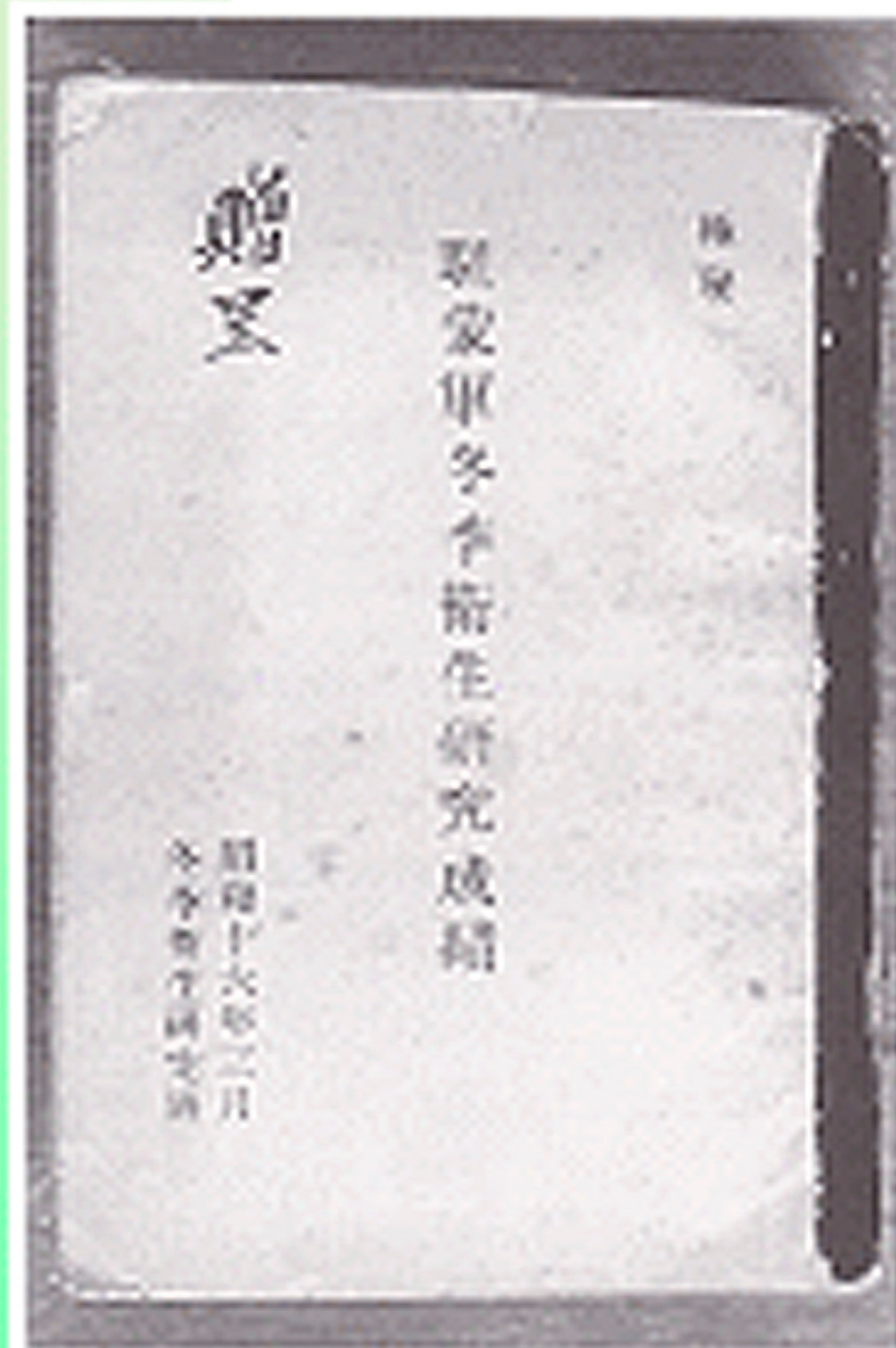
### 湯浅謙元軍医の証言(2)

- 「生体解剖はどの位の軍医がやったのかということ  
とです。北支の陸軍病院では全部の病院で実習  
をやりました。私の病院では、軍医が常時5人、  
交代があったので、10人以上いました。部隊か  
ら外科の技術のない軍医を集めてきて生体解剖  
をやりました。或いは、各地の陸軍病院、野戦病  
院等から40人くらい軍医が集まって、4人の方に  
対して生体解剖、手術演習をやったのを覚えて  
います。」(「究明する会ニュースNO. 91 2001年4月21日」)



## 6. 手術演習と生体解剖(3)

### 『極秘 駐蒙軍冬季衛生研究成績』(1)



- 「本研究成績ハ昭和十六年二月内蒙古西蘇尼特附近ニ於テ駐蒙軍冬季衛生研究班ノ研究實施セル成績ヲ報告セルモノナリ」

昭和十六年三月

冬季衛生研究班長 谷村軍醫少佐  
(1945年6月25日 現代書館復刻)



## 6. 手術演習と生体解剖(4)

### 『極秘 駐蒙軍冬季衛生研究成績』(2)



天幕内「左大腿」の手術

- 「天幕内ニ於ケル生体試験」
- 「左大腿切断術」  
「左大腿部膝関節より概ね10センチメートル上部に於いて、切除刀を以って輪状切開し、一期に骨部に達す。型の如く弓鋸を用い大腿骨の切断を行い…」(1941年2月)  
(1995年6月25日 現代書館復刻)



## 7. 義肢と切断術(1)

「義肢と切断術」 片山國幸

- 人体四肢の重量と義肢の重量との相関関係の研究のための「実験検査」
  - (1)成人**屍體四肢切断**重量測定及び體重ニ對スル百分率測定
  - (2)四肢切断者並ニ義肢装着者ノ體軸振動曲線ニ就テ
  - (3)義肢装着者背筋力並ニ疲労試験など日本整形外科学会雑誌五卷六号(1931年3月)



## 7. 義肢と切断術(2)

### 「義肢と切断術」 片山國幸

測定成績、

成人男屍ノ測定成績、

第1例 年齢一五、身長一七〇センチメートル  
胸囲一八〇センチメートル  
身長一七〇センチメートル 體重一五〇キログラム  
測定時間一時間 測定回数一六回

	重量	體積(立方センチメートル)
肩關節部重量	2000g	4.65%
上肢中央部重量	1500g	3.42%
肘關節部重量	1100g	2.50%
前腕中央部重量	650g	1.51%
腕關節部重量	400g	0.90%
股關節部重量	6000g	13.25%
大腿中央部重量	4200g	10.00%
膝關節部重量	2700g	6.25%
下腿中央部重量	1600g	3.75%
足關節部重量	800g	1.85%

- 実験材料は東京慈恵会医科大学解剖学教室の**11人の「成人屍體」**を使用して行う。(男子8例、女子3例)
- 切離断重量はいずれも男子が大きいが、百分率にすると同等か女子が男子を上回る部位がある。  
日本整形外科学会雑誌五卷六号(1931年3月)



## 8. まとめ

- 厚生労働省と財務省の発掘調査の検証
- 財務省調査で発見された医療用具や器具の鑑定
- 89年に発見された人骨との関連調査  
鋸断された四肢骨の鑑定が必要  
→骨折や病変などの痕跡がなく戦傷者の切断手術としては不自然
- 軍医学校時代の人体標本との照合
- 89年に発見された人骨の身元確認